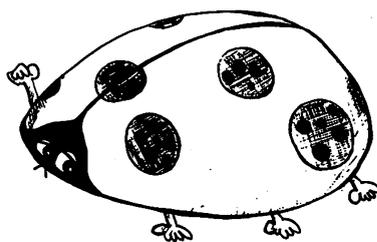


目 次

目 次	1
姫路昆虫同好会発足によせて	山本広一 2
読者の目	神戸新聞社 大谷記者 3
県下のFavoniusについて	岩村 巖 4
ギフチョウの飼育について	玉田作次 5
刺すハチ・刺さぬハチ	三木順一 6
私とアサギマダラ	市川義彦 6
私の昆虫採集記	沢辺 保 7
道場の蝶二種	矢代 武 7
ジャコウアゲハの異常型	森下泰治 7
私と昆虫	三木安貞 8
《食草》①—カンアオイ	家永善文 8
昆虫館だより①千種川グリーンライン昆虫館々長	内海功一 9
会報発刊によせて 姫路市立科学館々長	丸尾準治 9
播磨地方のムカシトンボ	相坂耕作 10
兵庫県産スジグロシロチョウの異常型	木村三郎 10
私のねがい	木村三郎 11
子供——虫へのあこがれ	城東幼稚園職員 11
蝶採集について	唐土洋一 12
林田町に産するヤブヤンマの生活	菅原昭夫・相坂耕作 12
姫昆サロン	12
虫への想い出	石井為久 13
佐用郡の蝶・前年との比較	黒田 収 13
雌岡山のギフチョウ	花岡 正 14
佐用の蝶	黒田龍一 14
加古川市の蝶	吉野和義 14
兵庫県産のキマダラモドキ	井出敏晴 14
花田中のハンミョウ	金田裕房 15
僕の希望	細川大雄 15
〔伝言板〕・〔質問箱〕	15~16
会 則	17~18
会 員 名 簿	19~20
行事予定	21
会員募集要項	22



〔てんとうむし〕

てんとうむしは	あかいふく
くろいぼたんが	テンテンテン
てんとうむしは	くろいふく
あかいぼたんが	テンテンテン
てんとうむしは	かくれんぼ
てんてん	みえたり かくれたり

題字「てんとうむし」：県立姫路西高等学校教諭
井上敏弘（号 山遙）先生
カット（てんとうむし）：タカラスタンダード（株）勤務
福岡 薫氏

姫路昆虫同好会発足によせて

山本 広一

県下には何種ぐらいの昆虫がいるであろうと聞かれても速答できるものでない。もっとも、ある種の分野に限ってはおよその数がつかめても、さて、それがどのように分布するかとなると難しい。最近の調査によると中国山地東部(兵庫県側)で得られた昆虫は蝶蛾の類(ミクロの類を除く)が約680種、甲虫類にいたっては1,400種にも及んでいる。実に播磨境の山々やこれより北と南に広がった中国山脈の山々は種類の豊かな地域であり、分布上注目すべきものも少なくない。

昭和5年の頃である。兵庫県では“郷土の自然物及び自然現象を調査研究する”ために兵庫県博物学会が発足し、大きな成果を収めたが、昭和16年兵庫県中等教育博物学会に合流し、さらにその躍進を企てた。しかし、その活動は時局の悪化によって妨げられ、会もいつしか立ち消えた。創立以来10余年、その業績をながめると植物・地質の調査が主になり、機関誌上に残された昆虫資料は多くない。というのも昆虫が植物ほどに得られなく、採集自体が難しかったためだろう。

一般に昆虫熱が高くなり、同志の集いがあちこちに誕生しはじめたのは戦後のことである。しかし、新たな会はほとんどが地方的な存在か、もしくは学校単位のものであったため、その運営が難しく、やがては消滅の憂き目に遇ったものもある。しかし、彼らが昆虫の分布や生態の研究調査につくした役割は高く評価されてよい。とりわけ日本の蝶に関してはそうした感を深くする。

さて、本県で最初にできた同志の会は“虫同友会”でなかろうか。創立はたしか昭和22年であったように心得る。ところが、この年兵庫県生物学会が設立され、その前年にはすでに三重県下に出来ていた近畿甲虫同好会(現在の日本甲虫学会)が宝塚へと移された。その後、神戸昆虫同好会・採集と観察の会・尼崎昆虫同好会・阪神学生生物研究会・兵庫

むしの会・淡路昆虫同好会・西脇自然同好会・兵庫昆虫同好会等々が誕生し、今またここに姫路昆虫同好会が発足したわけである。したがって、これらに学校独自の生物研究班を加えると同志の会はかなりの数になるだろう。私は本会の誕生を喜しく思うとともに、この会が姫路地方を中心に播磨の昆虫相を明らかにし、ひいては県下全域の解明に寄与するように希望する。播磨には北部に1,000m級の山々が未踏のままになっており、植物相の複雑な宍粟奥地が調査される日の早かるようにと待っている。

ところで、この際特記したいのは西播地方の昆虫が早くも明治の後半に大上宇一氏や井口宗平氏ら郷土の先覚者によって調べられ研究されていたことである。この点、欧米人に拓かれた神戸地方のそれとその趣を異にする。

大上氏は慶応元年揖保郡香島村篠首(現在の新宮町)に生まれ、昭和16年までの生涯を郷土の生物・地質・気象・産業・民俗等広い範囲の研究に没頭された方であり、発表された報文は400篇を下るまい。昆虫についても造詣深く、“播磨蝶類報”“播磨産象鼻虫科略報”“播磨産葉蜂科報知”等々挙げれば限りはないが、明治39~40年昆虫世界に寄せられた“播磨産甲虫類”はルイス氏その他の書を取り入れた価値あるものといわれている。

また、井口氏は佐用郡久崎村榎田(現在の上月町)の人、明治18年土地の農家に生まれ、明治37年名和昆虫研究所に学んだが、2年ばかりで帰郷し、その後は郷土の昆虫相の研究に専念されたと聞いている。この間に集められた標本は3,000種にも及ぶ由、その業績は氏の名譽をになうイグチサシガメ・イグチヒラタサシガメ・イグチヒシウンカなどの名とともに永久に消えるものでない。氏の発見された昆虫は数多く、研究は昆虫の全野にわたり、大正11年以後に話題を呼んだシルビアシジミも実は大正11年中原和郎博士が井口氏からの

「読者の目」

神戸新聞社 大谷 記者

標本(久崎産)にもとづいて命名されたものである。

ところで、久崎は蝶の宝庫というに相応しい。昭和9年私は佐用川沿いに広がったナラガシワ林に分けいって新種とおぼしき蝶を得、同28年その詳細を記録した。これが今日ヒロオビミドリシジミと呼ばれる珍種なのである。

明治34~35年頃の“博物之友”を繙くと、しばしば福田氏(後の駒井卓博士)の名が見うけられ、姫路周辺での氏の活躍ぶりがうかがえる。なかでも明治35年揖保郡竜野町で手にされたキマダラルリツバメは岐阜県に次ぐもので、広く世の注目を惹きつけた。福田氏は明治36年姫路中学校を卒業された方であり、この発見も氏が在学中の業績であったわけである。

また、記録によると明治34年東郷隆次氏は神崎郡船津村でモンキアゲハを採集されている。今ではさほど珍しいものとは云えないが当時は南方系のこの蝶が本州にいるかどうか疑われ、一部に話題を呼んだこともあり、船津村はその後に得られた姫路市下寺町とともに本州で数少ない産地の一つとなっていた。

このように西播地方における昆虫相の研究は歴史が古く、由緒深いものがある。これは姫路以西の地がこうした面で進んでおいた証左であるといつてよい。ここに私どもは先輩諸兄の後を継ぎ、この地の昆虫相をより明らかにするために精進すべきでなかろうか。

会の門出にあたって駄弁を勞し、さらに今後の発展を祈りたい。

たいがい帰宅するのは子供たちが寝てしまった時間なのだが、まくら元に紙箱が並んでいて、踏みつけないように気をつけなければならない。一度、いっばいきげんの千鳥足で箱をけとばしたら、足の指にチクリときた。団地の周りで集めたハナムグリが十数匹はいていたのだ。

いま、小学二年生と幼稚園の息子が飼っているのは、キアゲハの幼虫三匹、カラスアゲハの幼虫が五匹、カイコ八匹、デメキン一匹カブトムシ二つがい、ブンチョウ一羽、アメリカザリガニ一匹、オタマジャクシ十数匹。それに、トカゲやカエルが出入りしているが、友だちと交換することが多く、一定していない。幼稚園の息子は、メンコ五枚でアオガエル一匹を手に入れてきていた。

子供たちにとって、これらの生き物は、メンコやミニカーなどと同じおもちゃの延長線上にあるようだ。いっしょに遊べる仲間であり、おもしろい動きを見せてくれる友だちと思っているらしい。しかし、アゲハの幼虫がサナギになり、木の枝のサナギは灰色、ミカンの葉のは緑色、ビンの壁のは白っぽい色に変わっているのを発見したとき『どうして違うのだろう』『チョウになっても一匹ずつ色が違うのかな』といいだした。

残念ながら、私は子供たちにうまく説明してやれる知識を持っていない。少年時代、網を持って駆け回ったことがあったが、いまから思えば、きれいなおもちゃを集める競争に夢中になっていただけで、チョウを通じて自然を知るのではなく、自然からチョウをもぎとっていたのだった。

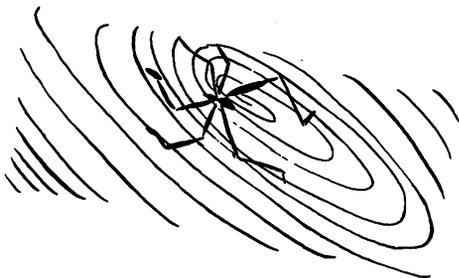
昨年の夏、いっしょに仕事をしている仲間が、播磨のあちこちを訪ねて昆虫の生きているようすを観察、写真とともに連載した。ヒメハルゼミの脱皮の瞬間、ハッチョウトンボの交尾のありさまなど珍しいと思えるものから、カマキリ、カメムシなどだれでも知っ



ている昆虫も含めて紹介したのだったが、取材に苦労したのは、ナナフシやオトシブミなどより、テントウムシやアメンボの方だったという。どこにでもいると思っていたら意外に見つからず、捜しているうちに取材の時間がなくなってしまったというのだ。

『ありふれていると思っていた昆虫が姿を消している。自然の減少、というのか、ぼくらの生活環境の変化がしみじみわかった』と、担当記者はため息をついていたが、このような自然破壊をどう考えたらいいのだろうか。おそらく、多くの人たちが同じようにため息をついていることと思うが、こうした思いを集め、データで裏打ちし、自然を守る運動の世話をするグループが生まれれば、私たちは教えられるところが多く、さらに踏み込んだ記事を書くことができると思う。

そしてまた、いま子供たちがおもちゃとして付き合っている生き物を、人間の仲間として見るようになるためには、これからさまざまな自然を理解していく過程が必要になってくる。小さな生き物と、心おどる出会いを繰り返し歩いてほしいと思う。そういう世話をしたり、機会をつくったりするグループが生まれたことはとても重要なことで、私たちはすばらしい人たちと知り合えたと喜んでいる。



“県下のFavoniusについて”

(オオミドリシジミ属)

岩村 巖

6月の声を聞くと、どうしても一度はその姿をみたくて出かけるものにFavoniusがある。朝な夕なにあの金属様の青緑色の翅をきらきらさせて、食樹のまわりをとびまわっている姿は実に美しいものであり、このような生物を創造した自然に感謝したい気持ちになる。

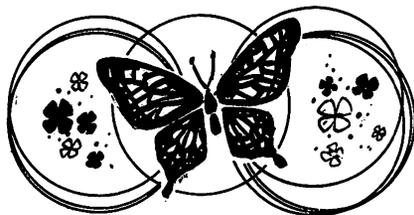
もう20年以上もむかしになるが、私が蝶に興味をもち、図鑑等を通じてZephyrusとよばれる美しいシジミチョウの一群がわが国にすんでいることを知り、近くのクヌギ林で初めてオオミドリシジミを手にした時のあの感激は今も鮮明に私の脳裏に残っている。それ以来、シーズンになれば県下のあちこちへ、これらグループの姿を求めて10mにもなる長い竿をかついで出かけるのが私の年中行事の一つになってしまった。現在、私の標本箱には、オオミドリシジミ以外にも、これらミドリシジミ属のグループの蝶がかなりおさまっているが、その個体数と種類数が次第に増すに比例して、県下の色々な所で、これらの蝶がその生活をおくっていることも明らかになって来たのである。

現在、兵庫県下には、日本産Favonius6種の内、クヌギ、コナラ等の林のある所であればたいがいその姿を見うけられるオオミドリシジミを筆頭に、ウラジロミドリシジミ、ジョウザンミドリシジミ、エゾミドリシジミ、ヒロオビミドリシジミ、ハヤシミドリシジミ等が6月上旬～7月中旬にかけてその姿をあらわすことが知られている。ヒロオビミドリシジミは県西部の佐用郡下に主な産地があることが知られており、岡山県との県境に散在するナラガシワ林にすみついている。この種類は、比較的最近になって、今までハヤシミドリシジミ等と混同して取り扱われていたものを、独立の種として分離されたもので、後翅裏面の白帯が他のどの種類よりも太い所からこの種名がつけられたようである。産地における個体数は決して少ない方ではないが

自然状態においてはナラガシワしか食べないこともあって、産地は局限される傾向がある。6月上旬頃より出現しはじめるが、中旬頃が最盛期であり、下旬には大破した個体が多くなる。同じ時期に同じ産地で発生するウラジロミドリシジミは、翅形及び翅の班紋の特異性によって他の種類と混同することのまずない種であり、大きさもやや小型である。これら両種は食樹の関係もあって、産地が一致している事が多い。

一方、より北部の山地に入るとヒロオビミドリシジミと近似種のハヤシミドリシジミが多産する所がある。食草がカシワに限定されているのと、県下におけるカシワの分布が極限されている関係もあって、産地はヒロオビミドリシジミにくらべてさらに限定されており発生時期も約20日ほど遅れて7月上旬中旬頃がその最盛期となる。同じ県北部の地に、ジョウザンミドリシジミ、エゾミドリシジミの両種も生活していることが知られており、その産地もかなり広いのではないかと考えられるが、今の所まだ十分な調査が行なわれておらず、詳しい所はわかっていない。

近年、建築材の生産のために、天然の広葉樹林の伐採がすすみ、より経済性に富み、より成長の早いヒノキやスギ等の二次林へと人為的に変化させられつつある。このことは、われわれのような蝶に関心をもっているものにとっては大問題であり、クヌギ、コナラ、ナラガシワ等の広葉樹をその食樹としている *Favonius* 属にとっては死活問題であろう。以前発見した新しい産地が、数年後にはスギ林に変化してしまっていて、がくぜんとした経験は私だけでなく大方の人が一度や二度は味わわれたことと思う。このような現実をまのあたりに見るにつけ、早急に県下におけるこれらグループの正確な分布を調査し、食樹林の保存を関係機関に働きかける必要性が痛感される。これらの愛すべき小動物が、この県下からその姿を消してしまうことのないよう何とかわれわれの力で努力したいものである。



ギフチョウの 飼育について

玉田 作次

前からカンアオイを少しばかり植えていた所、去年の或日、本会の木村先生から四月になればギフチョウの卵を少し分けてあげようと言われた。それからは幻の蝶の食草カンアオイの手入れを一層念入りにし、虫卵の届くのを一日千秋の思いで待っていた。五月五日になって木村先生が日ノ本学園に來られ待望の虫卵を13コ戴いた。2、3コはふ化していた。5月7日には全部幼虫になった。その13匹が一枚の葉の一ヶ所にびっしり体を寄せ合って集団を作るのである。

早速疑問が湧いた。蚕とちがって何故集団を作るのだろうか。

微量で動物の特定行動を誘起するものとしてはフェロモンがある。それも色々な感覚器官を刺激する。時には経口的に効くものもある。案外その外の原因かも知れない。例えば細い細いあの糸が集団を作る原因かも知れぬ。その他世話しながら色々考えた。しかし手をつける間もなくアットいう間に5月も過ぎた。6月1日には前蛹になった。

飼育してみると色々な疑問が次から次に出て来て科学心を呼びおこすものである。前述の幼虫の集団化の原因を好く利用すれば、害虫のアメリカシロヒトリ(集団となる)も一網打尽にされるはずである。

日ノ本学園の生物部は昆虫の飼育から出発しよう。ヒョウモンの飼育準備の為、三木先生(福崎町新)から世界最大のスマレ(パピリオナセア)を戴き来年の準備を始めている。

先輩諸兄の御指導、御援助を御願ひ致します。

刺すハチ・刺さぬハチ

三木 順一

腕白であった少年時代、アシナガバチの巣をつついて刺された経験は殆んどの方はお持ちのことと思う。巣に悪戯をして、襲って来るのは、集団で生活しているスズメバチやアシナガバチの類で、単独造巢のハナバチ、クマバチ、ジガバチなどは襲撃して来ることはない。襲撃して来るハチでも花を訪れている時や、クヌギの幹でカブトムシと共に樹液を吸っている時などは、つついても飛びかかって来ることはない。飼育されている洋種ミツバチは、取扱いが悪かったり、粗暴な群は飼主をよく刺したり、附近の人を刺して、困ることがある。その点野性の日本種ミツバチは殆んど人を襲うことはない。ミツバチは刺すと針に逆トゲがあって、こちらの皮膚に毒素と共に残る。よく針が抜けたハチはすぐ死ぬと書いてある本があるが、そんな事はなく又飛び去る。寿命は短いと思われる。

ハチに刺された痛さや腫れ方は個人差があって、7・8月はよく外来で治療を求められる。事故で刺される方は全身、所を選ばないが、巣に悪戯した時は殆んど顔面である。ハチはよく人の顔の部分を知っているらしい。巣をつついて追いかけられた時、顔をかくして地面に伏せていると、背中を這っていても刺さないものである。手で払うと、逆によけい襲撃される。痛さや腫れの大きさは、スズメバチ、キイロスズメバチ、ミツバチ、アシナガバチの順であろうか。日本種ミツバチなどは蚊の少し大きい程度、ハナバチ、クマバチ、ジガバチなど針の通らないものがあるし、刺してもイバラのトゲ程度のものである。人によってはハチに刺されてショック死する人もありニュースとなる。やはり顔の真中を刺されると一番ひどく、気絶した人も診た事がある。私はハチに強くて、一度に最も沢山刺されたのは30匹あまりのミツバチやアシナガバチの時で、少々痛かったが全く腫れず、1時間ばかり局所が熱かっただけ。それでも

スズメバチに2匹顔面をやられた時は30分ばかり仕事が出来なかったが、全く腫れず、1時間で全く跡片もなくなった。

この刺すハチは殆んどが働バチで、女王蜂は殆んど襲って来ることはない。10月中旬から11月上旬にかけてスズメバチ、アシナガバチ類は次々と雄が生れる。この雄バチは外見はよく似ているが、花を訪れる事はないし、動作が異なる。捕えて観察すれば雄である事が判るが、これは刺針をもたない。刺す動作はするが、全く刺さらない。これを塀の上などで日向ぼっこしている時、素手で捕えてみせると、殆んどの方が吃驚仰天なさる。手渡そうと進呈しても、全く受け取ってもらえない。皆様一寸悪戯なさって、雄バチは刺針をもたない事を一般に教育して戴きたい。



私とアサギマダラ

市川 義彦

もう40年も昔のことですが、故郷の信州で蝶にとりつかれ、小学校から帰るとカバンを投げ出し、捕虫網を持って近くの山をかけ廻っていました。

今でも、ひらひらと舞っているアサギマダラを捕ったときの印象が残っています。

その後、戦争で中断していましたが、私もこの齢になって殺生も好みませんので、蝶の飼育を皆様の御指導で始めたいと思っています。よろしくお願いします。

私の昆虫採集歴

沢 辺 保

理科の教師として中学校に勤務するようになってから生物、岩石、星と専門の化学以外の生物、物理、地学の広範囲についてある程度は知っていなければ教師の権威にかかると思い手近かなものからそれらの名前を記憶してはや半世紀を経過した現在、記憶力にはぶり若い時ほど名前が次々に口よりとびでない状態になってしまった。最初は郷里の豊岡市で但馬の山野を随分とうろついたこともある次は尼崎で植物の少ない市内をくまなく調査したこともある。三番目に鶏籠山のある竜野市に転動してから植物、岩石からもオサラバして昆虫採集に、わが子の体力増加をねらって本格的に専念した。その時に相坂耕作君とも師弟の関係で知りあった。現在は師弟関係が逆になりこの方面の造詣も深く逆に私の方が教えていただいているような現状である。四番目に現在の勤務校周辺の昆虫、特にトンボの採集にボツボツと手がけている状態であるので会員の皆様方のご指導をたまわりたく思っているような次第でありますのでよろしくお願いします。

道場の蝶二種

矢 代 武

春の女神ギフチョウが姿を消すころ、道場に二種の可憐な蝶が出現する。ギンイチモンジセセリとクロツバメシジミがそれだ。いづれも局地的で珍らしい蝶で一度は手にして見たい蝶である。ただ私も1969年以来採集していないので多少様子が変わっているかと思うが、まずは確実に採集できるものと思われる。

(ギンイチモンジセセリ)

福知山線道場駅で下車、駅前を左に4～5分行くと武庫川にかゝる大きな橋につきあたる。この橋から上流にかけて右岸川原が好採

集地である。川原の食草、アシの群落をたいてまわると蛾のようにフラフラと飛び出るので採集は極めて簡単である。特に春型にみられる裏面の銀白条は印象的である。

春型は4月中旬から出現し、夏型は7月上旬。9月上旬には秋型も見られるという。

(クロツバメシジミ)

前種とは逆に駅前から右へ川沿いに千刈水源地向い約10分。右側岩場にチラホラと食草のツメレンゲを見かけるようになる。この附近から道端の花にも見かけるが数は少ない。更に7、8分行くと右側に大きな岩場がある。こゝにはツメレンゲが多く、蝶も岩場伝いに舞い降りてくる。こゝで根気よく待つのが最も良い採集方法と思われる。

出現時期は5月上旬から断続的に年4、5回といわれるが、9月下旬が好採集時期と思われる。ただ飼育のためとはいえ食草のツメレンゲを乱獲し、一時は絶滅に類していたという。今後はこのような事のないよう皆で保護したいものである。

ジャコウアゲハの異常型

森 下 泰 治

1975年5月福崎町でジャコウアゲハ♀の異常型と思われるもの2頭を採集した。



私と昆虫

三木安貞

昭和49年8月末姫路市立科学館に虫の名前鑑定依頼に訪れたのが同好会に加入出来たきっかけです。同好会会員の一員として参加出来たことを心から喜しく思っております。

私は子供の成長に伴い5年前の夏休みに子供と虫取りに出かけ、この世界に首をつ込むことになったのです。それ以来、尋ねる友もなく、ただ昆虫館、科学館の標本、図鑑を見て自己流に標本を作り便覧で子供と共に名前を探し一人淋しく採集を続けていたのです。それゆえ採集出来る良い場所も知らず、行動範囲も限っておりました。そこでまず、郷土の昆虫から集めようと考え郷土の甲虫類を採集している段階です。

今、私は多くの先輩、良き友を得非常に喜んでおります。今後は皆様方の良き御指導を得、良き友になり同好会の一員として永く付き合っていきたいと考える次第です。

よろしくお願い致します。

《食草》①—カンアオイ

家永善文

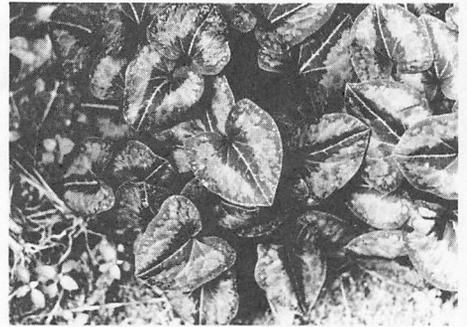
多くの動物は植物を食べている。動物の食生活は好き嫌いがはげしい。オーストラリアにすむコアラはユーカリを食べる。というよりユーカリしか食べないといった方がよい。それもコアラの種類によって食べるユーカリの種類もちがうという。

昆虫の好き嫌いもまたはげしいものだ。だから植物を保護しないと昆虫たちを保護することができない。それもどの植物でもよいわけではなく、昆虫たちの好きないろいろな植物が育っていなければいけない。スギやヒノキの植林地よりも自然のままの雑木林の方がいいわけだ。

今回は、春の女神といわれるギフチョウの食草であるカンアオイ類について記してみる。

カンアオイ属の分類は大変むずかしい。また進化の研究材料にもなり、植物学的にも問題多い種類である。

北半球に約100種類が分布している。日本には約40種(うち変種が10種)が、また兵庫県には6種類が知られている。県内に分布する6種のうち、ウスバサイシン、アツミカンアオイは但馬地方に、またナンカイアオイは淡路の南部に分布するもので、播磨地方にはフタバアオイ(船越山、山崎町、安富町、一宮町などに分布)、ミヤコアオイ(竜野市、相生市、上月町、山崎町などに分布)とヒメカンアオイ(東播磨六甲山、三田市、丹波地方などに分布)の3種が分布している。ギフチョウで有名な雌岡山のカンアオイはヒメカンアオイである。また、カンアオイそのものは、関東から中部地方に分布するもので近畿地方には分布しない種類である。



ミヤコアオイの葉はふつう大きく、白い模様があって美しい。ヒメカンアオイの葉は円形。フタバアオイの葉も円形に近い。徳川家の紋「三つ葉葵」は、フタバアオイの葉を3枚描いたものである。

カンアオイは陰地を好む植物で、名前の通り早春、濃い茶色の花が土に接して開くが目立たない。花には特有の匂いがある。花には花卉がなく、がく片が花卉のようにみえる。栽培はいたって簡単である。庭の木の下に植えてもよいし、鉢植えにしてもよい。光の量、肥料、水やりなどによって葉の形や色つや、模様がちがってくる。山草栽培としても興味がもてるものである。

*参考文献：建部恵潤「兵庫県産カンアオイ属の検討」(兵庫生物) VOL.7 No.1

昆虫館だより ①

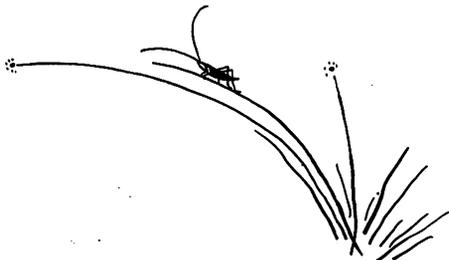
千種川グリーンライン昆虫館館長
内海 功 一

ヤマムユガ科のヤマムユガ、ウス
タビガ、ヒメヤマムユ、クスサン、
オオミズアオと今年は5種の幼虫が、
そろって展示できた。

普通、オオミズアオはサナギで越
冬し、5月頃羽化、そして産卵、他
のものたちがマユを作る頃ふ化する
ものであるが、室内が暖かったため、
約1ヶ月早く羽化、産卵したため
である。ウスタビガ、ヒメヤマムユは
特に幼時が似ているもので、どちら
もまだ黒色の初期をねらって採集し
たものである。

いま、エンマコオロギ、エゾスズ、
そして本年2回目のスズムシが鳴い
ている。鳴かないが夏もののコバネ
イナゴ、オオナナフシは産卵期であ
る。越冬もののクビキリ、ツチイナ
ゴも6月には寿命を全うすることだ
ろう。

クワエダシャクは下旬には発泡スチ
ロールの台をかじり、サナギになっ
ていた。他に、水生もの、大型甲虫
など、総勢約60種が、6月～7月に
向っている。 S.51. 5. 31



会報発刊によせて

姫路市立科学館館長
丸尾 準 治

姫路昆虫同好会結成、会報発刊おめでとう
ございます。

無風のひるさがり、太陽の光をいっぱい全
身にうけて飛ぶチョウは、ながめるひとに自
然の美しさを、いやおうなしに教えてくれま
す。しかし、近年この風景も、わたくしたち
の周辺ではあまり見られなくなっていくよう
に思えます。

自然の中でひとに、季節感を教え、風景を
豊かにし、生物の世代繁栄に働く昆虫類への
愛着がよりいっそう強い皆さんの集いに参加
して深い感銘を受けました。

わたしたちの科学館は、市民の皆さんに科
学思想を啓蒙していくことと、小中学校での
科学教育を援助していくことにつとめていま
す。科学館での展示活動はその中での重要な
ものの一つです。特に10月に開催している市
内小中学生の科学作品展には、数百人の出品
があり、数千人の参観者をむかえて、科学へ
の認識を深めてもらっています。

今までの作品展で昆虫部門には、いろいろ
の出品があって播州地方の自然のうつりかわ
り、ようすがうかがえる資料もたくさん含ま
れています。アゲハチョウ科をとりあげても
本州で生そくしているといわれる11種類
が採集地、採集年月日が名記され出品されま
した。わたしたちは、これらの資料を有効に
使えるように整理しなくてはならないと考
えています。その節は虫のよい話ですが、ご
協力をお願いしたいと思っています。

また、科学館主催で書写山の生物観察・採
集指導会、小赤壁海岸での磯の生物観察・指
導会も開催し、小中学生とその保護者の皆さ
んに自然を研究していただく機会をもうけて
います。

播磨地方の ムカシトンボ

相坂耕作

古い時代の形態をしたムカシトンボは現存するトンボの祖先型で生きた化石として有名ですが、同じ仲間は日本の他にヒマラヤ地方にみられるヒマラヤムカシトンボがいるだけで、世界的にみると極めて珍しいトンボといえると思います。私たちの播磨地方の分布は割合広く、今までに採集したものと資料により分布図を作ってみました。



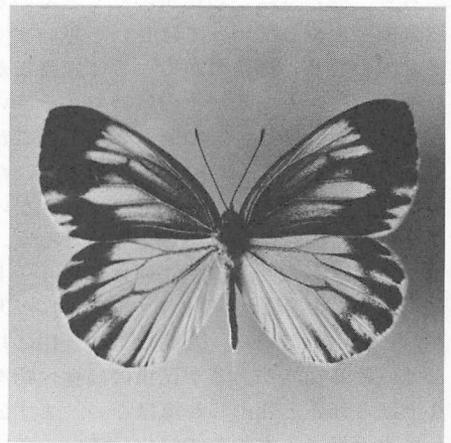
- ① 神崎郡大河内町川上
- ② 朝来郡生野町栃原
- ③ 朝来郡山東町
- ④ 西脇市比延
- ⑤ 宍粟郡波賀町赤西
- ⑥ 氷上郡黒井
- ⑦ 相生市三濃山
- ⑧ 三田市小柿
- ⑨ 多可郡三国岳
- ⑩ 多紀郡城東町
- ⑪ 飾磨郡夢前町雪彦山
- ⑫ 美方郡村岡町兎和野原

以上の様に兵庫県内の少し奥地に入るとほとんどの河川沿いで採集できます。

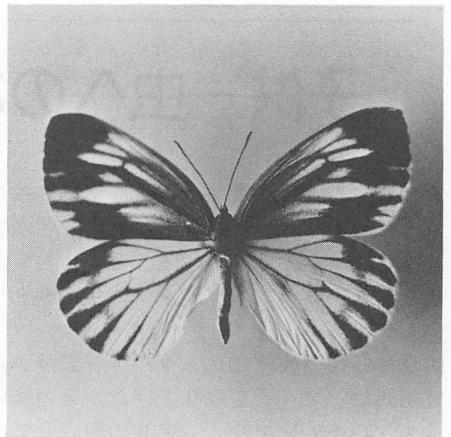
兵庫県産 スジグロシロチョウの異常型

木村三郎

毎年訪れることにしている佐用でスジグロシロチョウを観察し、他の地域とくらべています。この区域だけは夏型の♀が平均して表面翅脈上の黒条が非常によく発達しております。これから一年を通じ、個体変異を研究してみたいと思います。



1 ♀, 佐用郡上月町 23-6-1968,
Col. 木村三郎



1 ♀, 佐用郡上月町 24-6-1973,
Col. 木村三郎

「私のねがい」——木村三郎

姫路市に昆虫の住む自然林を広げよう。姫路市の自然も相当むしばまれて来ました。今のうちに昆虫その他生物の資料を集めなければ、子供達の代またその次の世代には、活字や写真だけでの虫だけで動く虫が全くみられなくなるだろうと思われまふ。それを防ぐ意味からも、緑いっぱい昆虫のたくさんいる自然公園を増やしてほしいと思ひます。日本全国の数多い都市の中で一番に姫路市が、また姫路市民一人一人がその気持ち、そういう考えを持ってほしい。私個人としてはこれ以上自然を破壊してもらいたくはないが、だからといって経済的にもみなければならない。やはり時代の流れにはさからえないだろう。カヤぶきの家から瓦屋根、鉄筋コンクリートへと変化 土の道からアスファルト、コンクリートへと変化している。人間はこの変化に対応していける知能があるが昆虫には食べ物を取り上げられると死ぬしか道はない。まず公園を昆虫の集まる木や草で緑化してほしい。なぜ松やイチョウやヒマラヤスギ等の木で緑化するのだろう。それよりもその土地

土地に自生している木や草がよいと思ひ。つぎつぎと宅地等に利用すべく山をけずっているのだから少なくともその分だけのこれらの木を植えてほしい。虫好きな一部の者の勝手気ままなことだろうか。これからの計画分から又、公害等で枯れた木の補充に、また街路樹として、たとえばエノキの道路、クヌギ、カシワの道路、道々色んな蝶々や昆虫が飛んでいる町に……………。

昆虫と植物のつりあいは良く出来たもので、おたがいがバランスをとりあい、ある特定の種だけが大量発生するかと思うと次にはその外敵の昆虫天敵や鳥がうまくセーブしてくれる。自然界にはそのようにバランスを保とうとする力があるのです。それを人工的に作られた薬剤で害虫益虫ともども殺す空からの全面的な薬剤散布はやめてほしい。虫がいっぱいの町、緑のある街、夢のある町、ぜひ一握りの虫好きな私達や子供達またその次の世代のために旗揚げしてほしい。今からでも遅くはない。今この機会を逃がすと永遠に虫のいる町がなくなる様な気がする。

子供—虫へのあこがれ——

城東幼稚園職員

子ども達の好きな虫についてたずねてみた。女兒は「ちょうちょ」が多く、男児は「カブトムシ」「クワガタ」その他、セミ、トンボ、ハサミムシ、カナブン、カタツムリ、ホタル、テントウムシ……………。

四月終り頃の教材に「ミツバチ」五月初めに「アリ」を取り上げた。そのせいか「ミツバチ」「アリ」「アリの卵」「アリの巣」にも興味をもっている。

アリの創作童話またはアリと遊びながら出来たお話しのなかにアリじごくが出てくるの

でアリじごくを実際に見せてやりたいと思ひ。私自身がずっと前に美しくできているアリじごくのスリバチ状の穴に魅せられた経験があるのでその話を子ども達にして聞かせることができた。

アリじごくはどんなところに住んでいるのかしら？ できれば手に入れたい。アリの巣に雨が降ったらどうなるのかしら？ 子ども達はつかってしまうと言っているが私には答えることができずにいる。どなたか教えて下さい。

蝶採集について

唐土 洋一

私が蝶採集を始めたのは、中学2年生の夏休みのときであった。そのとき採集した蝶は確か30種だったと記憶している。そして、あくる年より採集を続行し、初めて接触する蝶の姿に歓喜したものである。そして蝶を求めて山野を駆け巡りつつあるうちに、自ずから山歩きの方へと魅力が転嫁して行った。それと同時に家庭の事情等も含め蝶採集から段々と離れて行き、ときおり山歩きの途中で可憐な彼女等の姿をカメラに収めたりする方向へと移行して行った。

本年4月ひさびさに黒田庄へギフチョウの採集に行く機会を得、数年ぶりに彼女等と対面した。彼女等も観迎の意を示してくれたのか念願の野外での撮影にも成功し何ともいえない気持であった。ところで昨今の農薬散布、森林伐採、道路、ダム工事及び宅地造成等による自然環境の激変により、昆虫相もかなり変化してきた。我々蝶類愛好家は大自然の驚異に感嘆するのみでなく、生命の畏敬を尊び、自らの手で自然を破壊するようなことは厳につつしみ、蝶類の保護に務めるよう努力したいものである。

林田町に産する ヤブヤンマの生活

菅原昭夫・相坂耕作

国道29号線竜野の手前の林田町奥佐見へ採集についての事である。

ヤブヤンマは雄と雌とでまったく感じが異なり雄は青い目をした異人さんのように大変美しいトンボである。

雌は成虫になってもヤブから離れず一生をヤブで過ごす。こういう習性から名前がつけられたのであろうか。

私たち二人はここ二年間夏の盛りに奥佐見の奥に入っているが、そこにはタルの直径1m 50cm位のが数個捨ててあり、雨が自然にたまり有機質の豊富な水質となつてたまっている。そのタルにはいつも水が $\frac{1}{4}$ 程度残っており、トンボの絶好の産卵場所のように思う。

ヤブヤンマの雌もこのタルの中の木ギレ等に止まって休んでいるのを見うける。産卵している所はまだ見ていないが図鑑等をみるとヤブヤンマは古池の水際のコケの生えたところや湿った土に産卵すると書いてあり、タルの溜り水で実際に産卵しているかどうか疑問であり、本年度はタルの中のヤブヤンマの生活を調べつつ産卵をしているかどうか調査するつもりである。

姫

昆

サ

口

ン

てんとう虫には善玉と悪玉がいる。ヨーロッパでは、レディービートル(淑女のカブト虫)という。西洋では胸にテントウムシのプローチをつける。幸福のシンボルであるからだろう。かわいい口のスプーンでマメを食べるようにアリマキを食べてくれる。

アリマキの天敵であるのは善玉のナホシテントウ、悪玉には28の星を背負ったニジュウヤホシテントウがいる。これは害虫のチャンピオンでトマト、ナスその他農作物を喰いあらししてしまう。

日本には100種近い仲間がいる。

(S.5 相坂耕作)

「虫の思い出」—— 石井為久

私と虫の出会いをはっきり記憶しているのは昭和29年中学校に入ってからだ。学校は山の麓に切り開かれた丘にあり、回りを雑木林で取り囲まれていた。授業の合い間をみては裏山へ出かけた。そこには甘ずっぱい匂いを漂よわせているクヌギの樹液があった。たくさんの虫の集会所だ。そこではカブトムシが大将で次がスズメバチそしてカナブンで弱いのが蝶々でゴマダラチョウ、ヒカゲチョウという具合だ。でも強い者、弱い者仲良く、あるときはチョッピリ押し合いながら群がっている。そのクヌギを揺さぶればカミキリムシが落ちてきた。でも、ときにはヤママユガのでっかい幼虫が頭上に落ちて悲鳴をあげるときもあった。やがて授業再開のサイレンが鳴る。一目散山を駆け下たり、息を切らせて授業が始まる。頭の中はまだ雑木林にあった。そうして次第に虫が好きになった。

やがて、捕虫網を手に入れると虫を追いかけてまわした。甲虫、トンボ、チョウとなんでも集めた。そのうちチョウに魅かれていった。中学の私としては大奮発して原色日本蝶類図鑑を850円で買った。今は亡き祖父に手製の標本箱と展翅板を作ってもらった。今に比べ

ると粗末なものだったが大切にした。自転車の練習もやった。行動範囲が裏山から笠形、雪彦へと広がった。強い陽ざしの中、長い長い坂道を幾度も通った。沿道にチョウの姿を見かけると自転車を放り出して追っかけた。道を行く車もほとんど無く、たまにオンボロバスが来ると叱られた。栗の花に群がるヒョウモンチョウを追うのに小石を投げては叱られた。

やがて、採集のみから虫を育てるのに興味をおぼえた。庭のミカンのアゲハ。畑のモンシロチョウ。市川の堤のエノキにはゴマダラチョウ。また、秋にジュズダマの幼虫を飼ってクロコノマチョウが出たりして驚いた。やがて、高校となり姫路へ通う様になると、虫友達とも離れ離れになり忘れていった。長い間、山に夢中になった……。数年前、虫仲間に出会った。その日、私は古い標本箱を取り出した。十数年前そのままの蝶が並んでいた。再び私の心は自然の中に入り込んでいった。こんな懐かしい思い出を若い人達に、そしてまた私達を育んでくれた自然をいつまでも、いつまでも……。

佐用郡の蝶・前年との比較 黒田 収

佐用南地区で昨年6月15日ヒロオビミドリシジミ♂5♀5。ウラジロミドリシジミ♂2♀1。6月19日ヒロオビミドリシジミ♂2♀3。ウラジロミドリシジミ♂3♀5。ウスイロオナガシジミ♂3採集したので、今年もと意気込んで乗り入ると同地区が $\frac{1}{2}$ 程度開発されているので驚いた。しかし実際調査してみると今年に限り変化はなかった。でも来年は恐らく半分は開発され、そしてあげくの果て皆無になるであろう。悲しい事である。今年のヒロオビ採集行はヒロオビミドリシジミ♂3♀1でその他はウラジロミドリシジミ♂

1。ウスイロオナガシジミ♂3。ウラナミアカシジミ♂1。アカシジミ♀1。ミズイロオナガシジミ♀1採集した。目撃記録はヒロオビミドリシジミ♂3。ウラジロミドリシジミ♂2。アカシジミ♂5♀5程度である。去年同地区で調査した範囲ではオオムラサキゴマダラチョウ、テングチョウ、キタテハ、アカタテハ、ウラギンスジヒョウモン、メスグロヒョウモン、オオウラギンスジヒョウモン、ウラギンシジミ、ウラゴマダラシジミ、キアゲハ等が記録された。

雌岡山のギフチョウ

花岡 正

稲美野から見る雌岡山は、ここだけ盛り上った様に見え、周囲に山も少なく、頂上の神社からの眺望も素晴らしい。この山のギフチョウの話は、先輩達から十年以上前から聞いていたが、なかなか登る事が出来ず、登ったのがやっと三年位前の事です。もう神主さんの話によると、ここ数年数がめっきり減り、昔のおもかげはなく一年に1、2頭見られる程だそうである。蝶屋の数は、あちこちに見られたが、ギフチョウはほとんど見られず、保護を呼びかけるヒラだけが痛々しい。桜の花に来ているのもアゲハチョウだけだ。ここ数年、特定の人達の保護、飼育による増殖が図られていて、その成果が期待される。もう一度、境内の桜の花の中を乱舞する春の女神の姿を見たいものです。

佐用の蝶

黒田 龍一

今日は陽りがよかったので、佐用地方へ昆虫採集に行きました。

昼ごろ佐用の南の採集地でまず木の上からおりてきたウスイロオナガシジミを採り、岩の上に止まっていたテングチョウを採集した。次に行ったところは佐用の奥の若州という所でメスグロヒョウモンやミドリヒョウモンなどとんでいるチョウを採ったのです。ウスイロヒョウモンモドキを採りたかったのですがいませんでした。去年の今ごろは、たくさんいましたが今年はぜんぜんいませんでした。何かわけがあるのでしょうか。これから研究をするつもりです。

加古川市の蝶

吉野和義

私は加古川に住んでおります。まず地元の蝶からと思い、昨年までの採集品のみのデータですが、加古川市の蝶の中間報告させていただきます。これからも産地の発見、採集に励むつもりです。

(アゲハチョウ科……8種)

・アゲハ・キアゲハ・カラスアゲハ・ミヤマカラスアゲハ・ジャコウアゲハ・モンキアゲハ・クロアゲハ・アオスジアゲハ

(マダラチョウ科……1種)

・アサギマダラ

(シロチョウ科……4種)

・モンシロチョウ・モンキチョウ・キチョウ
・ツマキチョウ

(シジミチョウ科……10種)

・ムラサキシジミ・トラフシジミ・ベニシジミ・ウラナミシジミ・ゴイシシジミ・ツバメシジミ・ヤマトシジミ・ルリシジミ・ウラギンシジミ・ウラキンシジミ

(タテハチョウ科……12種)

・ミドリヒョウモン・ウラギンスジヒョウモン・イチモンジチョウ・アサマイチモンジ・コムスジ・ホシミスジ・キタテハ・アカタテハ・ヒメアカタテハ・ルリタテハ・コムラサキ・ゴマダラチョウ

(ジャノメチョウ科……7種)

・ヒメウラナミジャノメ・ウラナミジャノメ
・ヒメヒカゲ・ヒメジャノメ・ジャノメチョウ・ヒカゲチョウ・クロヒカゲ

以上42種です。

兵庫県産の

キマダラモドキ

井出敏晴

近畿に稀な種類ではあるが現在私の知っている限りでは佐用郡の秋里付近と同じ佐用郡の水根付近のごく限られた地域のみ分布しているように思います。お互いこれからも新産地の発見に励みましょう。

花田中のハンミョウ

金田裕房

ぼくたちの花田中学校の体育館の裏にハンミョウがとてもたくさんいます。5月中旬頃から現われ、多い時には50匹程にもなります。でも少ししか離れていない運動場には1匹も見られません。これはそこが住みやすいからだと思います。

僕の希望

細川大雄

ぼくは、こん虫が大好きです。同好会には行ってとてうれしいです。こん虫のことは、まだなにも知りませんが、みんなといっしょにべんきょうしたいと思います。

山にいったりするのは大好きです。おとうさんやおかあさんやいもうととおべんとうをもって、よく山にいきます。あみをもって行ってあげはちょうやとんぼなどをとります。ぼくの家の前、あいさかのおじさん(S.5)は、ちょうの名前もがもとんぼの名前もよく知っています。はかせのような人です。ぼくもいっばいべんきょうして、あいさかのおじさんみたいになりたいと思います。

〔伝言板〕

僕は昨年の夏に裏山でたくさんのカブトムシやクワガタを採集しましたが、冬に木を切られてしまいましたので今年も採集できるかどうかわかりません。僕の家は姫路から遠いので会員の方で宍粟郡一の宮の方へ採集に来られる方がおられましたらぜひ同行させて下さい。(J. 4 門積隆男)

【質問箱】① 私は学校でモンシロチョウの卵の色の変化や卵から幼虫、蛹、成蝶への変態の勉強をしました。でも、なぜモンシロチョウは白っぽいのと黒っぽいのがいるのでしょうか？また、春や秋にもいるのですか。(J.10 稲田潤子)(J.11 黒田明子)

白っぽいモンシロチョウは♂(オス)で、黒っぽいのが♀(メス)です。

また、北海道のような寒い地方は年2回卵から成蝶になり、九州のような暖かい地方は年5～6回です。

私達の姫路地方は年4～5回と思いますが確実な記録はそろっていません。ぜひ調べてください。(係)

【質問箱】② 私は虫が大好きです。兵庫県では他にどのような会がありますか。(J. 3 大西 実)

現在、兵庫県には兵庫昆虫同好会、虫同好会、淡路昆虫同好会等があります。その他3～4の自然愛好会があると思いますが残念ながら全部姫路から遠く離れています。当会としては、それら各同好会と資料交換等を進める予定です。(係)

【質問箱】③ トンボが2匹しっぽをつかんで飛んでいるのは何をしていますか。(J.18 稲田直彦)

〔係〕 幼虫(ヤゴ)から成虫になり一定の期間がたったトンボは生殖期になり交尾能力を持つようになります。普通は交尾しているのですが、交尾後にも2匹連らなって飛んでいることもあります。これを後連結といい交尾ではありません。又、たまに♂2匹♀1匹の三連結が見られることもあります。

〔質問箱〕④ カブト虫は何日ぐらいで成虫になりますか。

(J.09 尾内浩明)

(係) 皆さんもよう御存知の事と思いますが、カブト虫は完全変態(卵→幼虫→蛹→成虫)という世代をくりかえします。成虫は腐葉土の中にもぐりこみ卵を産みつけます。一頭の産卵数は20～30粒で卵は約10日位でフ化します。幼虫は腐葉土をたべ1ヵ月ぐらいで3令(終令)まで生育しそのまま冬を越します。気温が上昇すると再び活発に食べはじめ当地方では6月の始め頃から蛹になり始め20日ぐらいで成虫になります。以上のように卵から成虫まで約1年近くかかるのです。

〔質問箱〕⑤ 昆虫には、なぜその地域だけにしか見られない昆虫というものがいるのでしょうか。たとえば「ウスバキチョウ」は北海道の大雪山にだけしか見られません。このような特定の地域は、どうして限られてくるのでしょうか。

(J.01 黒子達郎)

昆虫の分布地域・産地・生息地のことで、所変われば品変わるといことわざがあります。昆虫たちの世界もまったくその通りで北海道の昆虫になじんだ人が奄美大島や沖縄へ行けば見なれない昆虫で驚くことでしょう。また外国へ行けばさらに珍しい数多くの変った昆虫が見られます。

ある地方にある昆虫が分布(生息)している。私たちは多くの昆虫などを通じこの事実は知っています。しかしその原因をつきとめることは容易ではありません。詳しくいえばその昆虫またはその昆虫の先祖がいつ頃地球上の

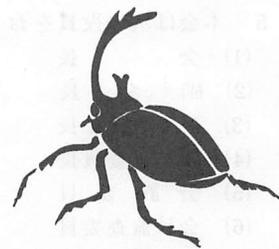
どこに現われたか、そしてその後の地史や気候の変動にあわせてどう進化したかということから出発しなければ本当の事はわかりませんと思います。

大変むつかしい事を述べましたが生息(分布)状況とその原因について奥深く追求するのは将来勉強することとして、皆さんは今、その昆虫が現在の環境条件に適合しているからだと覚えていて下さい。(係)

〔質問箱〕⑥ 昆虫は何種類ぐらいいるんですか。(J.07 木崎信雄)

学者により答えはいろいろですが、一般的には地球上約100万種類の動物があり、そのうち70万種類が昆虫類です。しかし、毎年多くの新種が発見されていますのでますます数は増えるはずで、昆虫類のなかで一番多いのは甲虫類で約30万種いるといわれています。

(係)



姫路昆虫同好会・会則

1976. 6. 4.

第1条 (名称) 本会は姫路昆虫同好会という。

第2条 (目的) 本会は野外で生活する昆虫のいとなみを正しく理解し、これを通じて自然に親しみをもち、自然を愛する心の広い人間を形成することを目的とする。

2 本会は会員相互の親睦ならびに姫路市立科学館の昆虫資料の充実に奉仕することを目的とする。

第3条 (事業) 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 年1回4月に総会を開く。
- (2) 年4回以上の例会を開き、それは採集会、研究会等をもってあてる。
- (3) 会誌(「こむらさき」、会報(「てんとうむし」)を発行する。
- (4) 昆虫採集用品、資材などの購入をあっせんする。
- (5) 作品展示会、同定会などを開催する。
- (6) 夏休み時、一般小中学生の昆虫採集、標本製作、飼育などに協力する。
- (7) その他、前条の目的を達成するために必要な事業を行う。

第4条 (事務所) 本会は事務所を当分の間、下の所におく。

▽ 671-23 飾磨郡夢前町菅生潤161

木村三郎方(振替、神戸9916)

第5条 (会員および役員) 本会は姫路市内に在住、もしくは姫路市に勤務している人で、昆虫に興味をもっている人であれば自由に入会することができる。

2 上記以外の人でも、賛助会員として入会することができる。

3 会員はいつでも退会することができる。

4 本会はジュニア部(小学校4年生~中学校3年生)とシニア部(高校生、大学生、一般社会人)とで構成する。

5 本会は次の役員をおく。

- (1) 会 長 1名
- (2) 副 会 長 1名
- (3) 運 営 委 員 長 1名
- (4) 副 運 営 委 員 長 1名
- (5) 会 計 委 員 1名
- (6) 会 計 監 査 委 員 1名

6 本会の役員はシニア会員と賛助会員との互選によって選出する。
任期は1年間とし再選もこれを認める。

7 本会の役員の会務分担は下記のとおりとする。

- (1) 会長は本会を代表し、会務を総括する。
- (2) 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその会務を代行する。
- (3) 運営委員長、副運営委員長は若干の運営委員を召集し事業の目的を達成するための諸行事の立案計画をする。
- (4) 会計委員は本会の会計に関する事務を執る。
- (5) 会計監査委員は本会の会計を監査する。

第6条（会計） 本会の事業費は会員の入会金、会費およびその他特別費をもってあてる。

2 本会入会申込者は入会金として1,000円納入する。

3 会員は会費として年額次の額を納入しなければならない。

(1) ジュニア会員 600円

(2) シニア会員および賛助会員 1,800円

（ただし高校生は 1,200円）

(3) 協力会員 1,000円（入会金不要）

4 会費を1年間納入しない会員は退会したものとみなす。

5 同好会の名誉を著しくきずつける者 又、会員のチームワーク等をみだす者は委員会の決定により除名することができる。

6 前2項の場合と退会した場合既納の入会金および会費は返還しない。

7 本会の会計年度は4月1日より始まり翌年3月31日に終るものとする。

8 会計報告は会計監査委員の承認を得た後、総会において承認を得るものとする。

第7条（優待会員） 昆虫専門家、各地同好会等で本会への協力者、又標本資料等の提供者は無料とする（ただし個人の場合兵庫県在住者は認めない）

第8条（顧問） 本会は役員が決議によって顧問をおくことができる。

附 則

第1条 この会則は昭和51年6月4日から施行する。

第2条 本会則に含まれない事項は本会役員および運営委員の間で協議決定する。

＝行事予定＝

▶姫昆サロン会◀ ——シニア会員

7月18日▶科学作品事前指導会

PM1:00より姫路市立科学館にて昆虫の採集の仕方及び標本の作り方の講習があります。当ジュニア会員の特別参加を認めてもらっておりますので出席して下さい。尚、当指導会は当会の木村三郎氏が講習指導されます。

8月5日(木) PM7:00～10:00

市民会館 第一会議室
会費…500円(茶・席料)

9月2日(木) PM7:00～10:00

市民会館 特別会議室
会費…500円(茶・席料)

10月7日(木)PM7:00～10:00

市民会館 第一会議室
会費…500円(茶・席料)

8月1日▶第1回合同採集会

AM9:00より書写山にてシニア部、ジュニア部合同の採集会があります小雨でも決行いたします。
【集合場所】書写ロープウェイ駅参加会員確認の上、総めて切符を買います。費用は自己負担
ジュニア指導委員一相坂、花岡、山本氏の3名

* 会報発行について

発行予定日…7月10日、10月10日
1月20日、4月10日
原稿締切日…発行日の40日前
どしどし投稿してください。

8月29日▶科学作品事後指導会

AM10:00より姫路市民会館にて昆虫標本の同定を致します。夏休みに採集した昆虫標本の名前等を教えてもらえますので多数持寄って下さい。この指導会に当ジュニア会員の特別参加を認めてもらっております。尚、事後指導会は当会の相坂氏木村氏が説明して下さい予定です。

役員一覧

会 長	山本 広一		
副 会 長	岩村 巖		
運 営 委 員 長	木村 三郎		
副 運 営 委 員 長	相坂 耕作		
会 計	木村 三郎		
会 計 監 査 委 員	三木 順一		
運 営 委 員	家永 善文	唐土 洋一	
	花岡 正	山本 五男	
ジュニア会員 指 導 委 員	木村 三郎	相坂 耕作	
	唐土 洋一	菅原 昭夫	
	花岡 正	山本 五男	
阪神地区運営委員	矢代 武		

あなたも協力会員になって下さい

＝「オオムラサキ」カラー絵皿プレゼント＝

あなたの昆虫・自然に対する意見、質問をどしどし会宛にお寄せ下さい。会報にて答えさせていただきます。

又、同好会に対する意見、希望も可能な限り取り上げ今後の姫路昆虫同好会の在り方に生かしていきたいと思えます。

尚、創刊を記念して9月15日までに協力会員に入会していただいた方の中より10名様に抽選にて「オオムラサキ」の羽化直後の極美なカラー印刷の絵皿をプレゼントします。

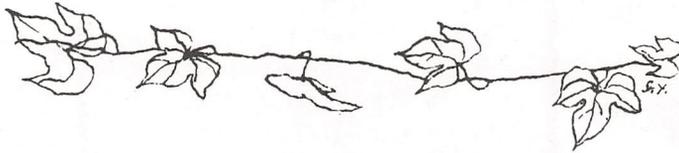
会報No.3号にて当選者名を發表します。

〔特典〕

- 年4回の会報進呈。
- 特集号(2～3年に1回)の進呈。
- その他当会主催の催しには優先的に御招待いたします。

〔入会要項〕

氏名、職業、住所、〒番号を御記入の上、**年会費1,000円**を添えて当会事務所まで郵送してください。(振替用紙利用)



〔正会員募集要項〕

シニア会員の方は

〒671-23 飾磨郡夢前町菅生潤161
TEL (07933) 5-0225
木村 三郎方
姫路昆虫同好会(振替神戸9916)

*シニア部の活動

- 主として日本産の昆虫類の採集、飼育、研究
- ジュニア会員の指導
- 採集データの報告(昆虫類分布調査記録用紙使用)
- 昆虫類標本等の交換、譲渡
- 会報、会誌等への投稿

ジュニア会員は

〒670 姫路市西延末字手柄山440-2
姫路市立科学館内姫路昆虫同好会
TEL (0792)23-1080

*ジュニア部の活動

- 主として姫路地域の昆虫類の採集、飼育研究
- 採集データの報告(昆虫類分布調査用紙使用)
- 昆虫類標本等の交換、譲渡
- 会報、会誌等への投稿

編集後記

このたび会員全員の投稿、会費の即納をもちまして、予定通り会報てんとうむし Vol.No.1,2,を発行することが出来ました。運営委員として御協力をありがたく思っております。又、城東幼稚園の今津先生、神戸新聞社の大谷記者、市立科学館の丸尾館長にも多大の御支援をいただきまことにありがとうございます。これからもよろしく御指導、御鞭達をお願い申し上げます。

運営委員は全員が委員長でもありまた会員でもあると考え、互いに協力しあっていきたいと思っております。(虫) 会員としての資格は年1回以上の投稿又は例会等に出席し、会則の厳守、会費の事前即納を建てまえます。当初発足会に入る前はガリバン刷りで始める予定でしたが会員の山本五男君の写植技術を提供いただきこの様な立派な会報が出来ましたことを報告させて致します。これからも投稿はもちろん費用の増大にからみ会員の勧誘にもご協力下さい。趣味としての遊び時間を有効に使っていきましょう (運営委員)

「てんとうむし」 Vol.1 No.1,2

発行 姫路昆虫同好会

飾磨郡夢前町菅生潤161

印刷 山野印刷

写植 山本写植